

# 白十字病院歯科口腔外科における過去8年3か月間の 口腔・顎・顔面外傷の臨床統計的検討

齋木 正純<sup>1)</sup> 喜久田利弘<sup>1)</sup> 梅本 丈二<sup>1)</sup>  
 嵐田 齊人<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>福岡大学医学部歯科口腔外科学教室

<sup>2)</sup>医療法人白十字会 白十字病院歯科口腔外科

**要旨：**1995年1月から2003年3月までの過去8年3か月間に白十字病院歯科口腔外科で治療した口腔・顎・顔面外傷患者172例について臨床統計的検討を行った。

1) 年齢別では、30歳未満までの症例は114例(66.3%)を占めていた。2) 男女比は1.9:1で男性に多かった。3) 紹介受診は87例(50.6%)、直接受診は85例(49.4%)であった。4) 172例中166例(96.5%)の患者が受傷後14日以内に来院していた。5) 受傷原因では、交通事故67例(39.0%)が多かった。6) 歯牙、歯槽骨、顎骨、頬骨および口腔軟組織外傷の合併例は46例(26.7%)であった。7) 全身の合併症の頻度は172例中17例(9.9%)で、下肢骨折が最も多く7件、脳挫傷、頭蓋内出血、肺挫傷3例と続いていた。8) 軟組織創傷では、下口唇が最も多く、小帯部、上口唇の順であった。9) 下顎骨骨折のみは最も多く36例(22.4%)、次に上顎骨骨折のみは13例(11.2%)であった。合併例では、上顎骨と頬骨骨折の合併は5例、上顎骨と下顎骨骨折の合併は3例であった。10) 最も多い骨折部位は、上顎骨は歯槽部、下顎骨はオトガイ部、頬骨は弓部であった。11) 外来処置は132例(76.7%)、入院下での処置40例(23.3%)であった。平均入院日数は24.7日間であった。

今回の臨床統計的検討から、当科の口腔・顎・顔面外傷の治療において、院内および当科の地域的貢献が認められた。

**索引用語：**口腔・顎・顔面外傷、臨床統計的観察、白十字病院歯科口腔外科、過去8年3か月間